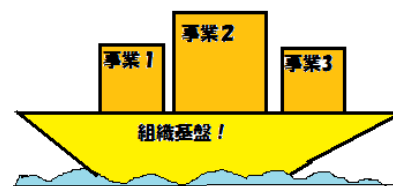


A SEED JAPAN 組織基盤強化プロジェクト - “なる”プロジェクト

1. “なる”プロジェクトとは？

いくら立派な荷積み（＝事業）があっても、それを支え運ぶための船（＝組織）がもろいと船ごと沈んでしまいます。当団体でも人材育成や資金調達など、活動を行う上で必要な組織の基盤をつくる必要があります。A SEED JAPAN では2014年1月から、パナソニックNPOサポートファンドの助成を受け、組織基盤強化に2年間取り組んできました。



2. “なる”プロで行ったこと

【1年目の実施事項と成果】ビジョン・ミッションを再確認した上で、中期目標・戦略を設定

＜中期目標＞

- ① 現代及び将来世代にわたって環境破壊や人権侵害を引き起こさない経済・金融システムを主流化させるために、企業の経営行動や政策を変える。そのために意思決定者に影響を与える。
- ② 自然エネルギーや有機農業などの普及を通して、持続可能で公平な生産・消費を市民が選択できるようにする。そのために世論を形成する。
- ③ 上記を若者が主導することで、社会を変革する人材を各セクター及び地域に輩出する。

＜そのための今後3年間の戦略＞

- ① 社会変革型プロジェクトの強化-Fair Finance Guide をASJ全体で進めるプロジェクトに。
- ② 分野を超えたNGO・企業とのネットワーク形成・強化
- ③ 人材育成・輩出の仕組みの構築-OG・OB会の設立
- ④ 「新しい経済のカタチ」の議論継続・理論化-現場のNPO・NGOとの議論を経て、都市と地域の連帯・東京の責任について考え発信する。

【2年目の実施事項と成果】活動・財政構造の中期ビジョンを構築

2015年度決算では、1200万円の収入の内、助成金事業が全体の7割を占めています。安定した財源を増やすため、会員の維持と寄付収入を増やす方向性を合意しました。提言活動に必要な「多くの支持者の存在」を証明する事にもなるため、団体のミッションに一番合致すると考えたためです。そのために、現段階ではまず基幹プロジェクトの成果の最大化と寄付者・会員増の戦略策定に注力することを理事会で確認しました。また、それを支える理事会体制・事務局体制も見直しました。

ガバナンスの強化 (理事会体制の改革)

- 代表・事務局長の意思決定権強化
- 理事・理事会の責任範囲明確化
- 上記を踏まえた、定款／理事会細則の見直し

財源構成のビジョン構築

- 新事務所への移転
- 会員戦略・会員制度の見直し
- 寄付戦略（マンスリーサポーター制度導入）
- 事務局有給2名体制の検討

事務局体制の強化

- 事務局有給一人体制に対応した事務局ボランティアチームの確立
- 顧客管理・情報管理の強化（Salesforce導入）
- 会計ルールの明確化、会計インターン受入れ

支援者コミュニティ構築（Roots to Seedsの実施）／社会的成果を測定するための指標の検討（活動報告フォーマット改訂）